

平成22年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業報告書（近畿地区）

実施地区名

近畿地区（主担当大学：大阪大学）

事業名

国立大学図書館協会近畿地区協会セミナー

「変容する大学図書館 ― 図書館とは何をするとところ？ ― 」

事業目的・趣旨

図書館学の父と呼ばれるインドのランガナタンは、今から約80年前に「図書館学の五法則」を唱え、その中で「図書館は成長する有機体である」と提唱しています。ところで、私たち大学図書館で働く図書館職員は、社会や利用者や組織ニーズの変化に柔軟に対応しなければならない「成長する有機体組織」の中で働いているという自覚を、しっかりともっているといえるでしょうか。

ここ数年の私たち図書館職員の活動の主流は、「図書館学の五法則」の四番目にある「図書館利用者の時間を節約せよ」を目標に、電子ジャーナルや電子ブック、機関リポジトリなどの電子学術資料の整備でした。この整備事業は今後も継続して実施し続けていかねばなりません。これからの時代は、私たち図書館職員が前面に出て、「蔵書の倉庫番」といわれる古い図書館職員のイメージを払拭し、実践的な教育を学生に実施する場としての図書館像を創り、教員と連携しながら積極的に学習支援を担っていくことが、大学の図書館職員に求められていることではないでしょうか。

また、賛否両論はあるでしょうが、大学によっては文書館・出版会などと連携し、業務を遂行している組織も序々に出てきています。

大学図書館の現場で働く図書館職員が集い、今後の大学図書館のあるべき姿を熱く語り、今、私たちにどのようなサービスが求められているのか、どこに向かって図書館は進んで行けばいいのかなどについて、成長し続ける有機体組織で働く私たち大学図書館職員のひとりひとりが、私たちの将来を真剣に考える契機としたい。

事業概要

日 時 : 平成22年9月16日（木） 13:00～17:00

会 場 : 大阪大学附属図書館総合図書館（豊中）A棟6F図書館ホール

参加対象者 : 国公立大学図書館職員

主 催 : 国立大学図書館協会近畿地区協会

後 援 : 大学図書館近畿イニシアティブ

内容

- 13:00-13:05 挨拶 小泉 潤二 大阪大学附属図書館長
- 13:05-14:05 基調講演 京都大学附属図書館研究開発室准教授 古賀 崇 氏
「大学図書館、「次の一歩」は？ー情報源の多様化と学習支援ー」
- 14:05-14:15 休憩
- 14:15-14:45 事例発表1 大阪大学大学教育実践センター准教授 堀 一成 氏
「ラーニング・コモンズを利用した授業と学習支援の試み」
- 14:45-15:15 事例発表2 神戸大学附属図書館大学文書史料室講師 野邑 理栄子 氏
「大学図書館の新たな役割とその模索 ー文書館機能の付与についてー」
- 15:15-15:45 事例発表3 長崎大学学術情報部学術情報管理課長 甲斐 重武 氏
「九州地区のリポジトリ論文集を支援する大学図書館」
- 15:45-16:00 休憩（会場設営）
- 16:00-16:55 パネルディスカッション 進行：京都大学附属図書館 川瀬事務部長
- 16:55-17:00 会場閉会挨拶 大阪大学附属図書館 細戸事務部長
- 17:05-17:25 大阪大学総合図書館のラーニング・コモンズ見学（希望者）
- 17:30- 情報交換会

経費

執行額：110,000 円

（内訳：講師旅費及び謝金 96,280 円、会議費 13,720 円）

実施状況

参加人数：85 名（学外 55 名、学内 30 名）

ウェブサイト：http://www.library.osaka-u.ac.jp/seminar/janul_kinki.htm

